



「対等貿易の一つの形」 「まず理念理解して」

スリランカの農家と直接取引・清田和之さん

熊本市和泉町のフードパル熊本
で有機や無農薬栽培のコーヒー販
売店を営む清田和之さん(65)は2
004年、スリランカを訪ね、同
国で長く途絶えていたコーヒーの
栽培を政府が奨励しているのを知った。
「とところが、栽培している村を訪ねる
と、農家の栽培に関する知識は乏しく、
収入はわずかだった」と清田さん。以降、
年に数回、現地に出向き、収穫や乾燥な
どの指導を続け、08年から現地の農家と
直接取引し、コーヒー豆を輸入・販売し
ている。

日本フェアトレード委員会理事長とし
て、理念の普及に努める清田さんは「フ
エアトレードは発展途上国の人を救う活
動と考えられがちだが、対等な貿易の一
つの形」と強調する。清田さんが関わり
ている村では、数年間でコーヒー栽培者
する農家が数倍に増え、収入も約50%
増えたという。「生活改善が目に見え、
人々も元気になった。あうためてフェア
トレードの力を感した」

こうした経験を踏まえ、清田さんは「顔
と顔が見える関係が大切」と言う。また、
国内のフェアトレードの現状を「現地へ
の還元率など不透明な部分もある」と指
摘する。

清田さんは、「勉強会などを通じて、
まずは市民に途上国の歴史や生活の現
状、貿易の流れなどを知ってもらい、フ
エアトレードの理念を広めていくことが
必要ではないか。理念が理解できてこそ
商品が持つ意味も分かる」と話す。